



農でつながる
農で輝く

持続可能な農業経営
確立のために

(有)かさい農産 代表取締役会長 葛西信昭



(有)かさい農産



2003年 有限会社かさい農産 設立

2007年 日生協 適正農業規範 農場管理開始

2007年 JGAP GLOBALGAP 認証

2011年 JGAP放射能測定プログラム合格農場

従業員 27名(6名研修生含み)

経営面積 ハウス 1.2ha 露地 2.3ha

事業内容 野菜生産販売 青果卸小売販売 作業受託

JGAP GLOBALGAP 認証

Certificate of Registration



JGAP 認証書

有限会社かさい農産

〒029-0201 岩手県一関市川崎町門崎字川崎 65-10

出荷・調製施設:

出荷調製施設 〒029-0201 岩手県一関市川崎町門崎字川崎 65-10

出荷調製施設 〒029-0201 岩手県一関市川崎町門崎字清水沖 90

審査・判定の結果、以下の内容で、貴農場が
JGAP 個別認証を取得したことを証明します。

JGAP 青果物 2010

認証品目: アスパラガス、甘長とうがらし、エンサイ、からし菜、キャベツ、ごぼう、こまつな、ししとう、ズッキーニ、ちぢみ菜、ツルムラサキ、とうがらし、トマト、にら、にんじん、ねぎ、はくさい、はつがだいこん、ばれいしょ、ピーマン、ブロッコリー、ほうれんそう、みずな、モロヘイヤ、レタス、たまねぎ、長いも

認証登録番号 MIC-S-030000001

初回認証日 2012年8月25日

登録再発行日 2012年8月25日

(有効期限: 2014年8月24日)

Authorised Signature

坂井喜好



Moody International Certification Ltd.

4th FL., Nihonbashi-N Bldg., 1-4-2 Nihonbashi Horidome-cho, Chuo-ku, Tokyo 103-0012 JAPAN
www.moodyint.com

The certificate remains the property of Moody International Certification Limited to whom it must be returned on request.

Certificate of Registration

According to GLOBALG.A.P (EUREPGAP[®]) General Regulations IFA Version 4.0 Mar 11

Option 1



GLOBALG.A.P.

Issued to
Kasai Nosan Co., LTD

65-10 Aza Kawasaki, Kanzaki, Kawasaki-Cho, Ichinoseki-Shi,
Iwate Pref.029-0201,

Japan

Moody International Certification Ltd declares that the production of the products mentioned on this certificate has been found to be compliant in accordance with the standard:

GlobalG.A.P. (EurepGAP[®]) IFA version 4.0, CPCC fruit and vegetables, ver. 4.0 Mar 2011

Product	GLOBALG.A.P. Product Certificate Number	Harvest included	Product Handling included	Number of producers	Parallel Production	Parallel Ownership	First Harvest Non-Covered (ha)	Further Harvest Non-Covered (ha)	First Harvest Covered (ha)	Further Harvest Covered (ha)
Asparagus	00024-CCPTL-0002	Y	Y	1	N	N	N	N	0.225	N
Capsicums(Peppers /paprika/chillies)	00025-LKVCV-0002	Y	N	1	N	N	0.115	N	N	N
Carrots	00024-CCPTH-0002	Y	Y	1	N	N	0.195	N	N	N
Edible Burdock	00024-CCPTC-0002	Y	N	1	N	N	0.26	N	N	N
Garlic Chives	00024-CCPTP-0002	Y	Y	1	N	N	0.1	N	0.28	N
Herbs-misc	00024-CCPPV-0002	Y	N	1	N	N	N	N	0.2841	N
Japanese mustard spinach	00024-CCPVH-0002	Y	Y	1	N	N	0.191	N	0.3788	N
Spinach	00024-CCPVC-0002	Y	N	1	N	N	0.791	N	0.2841	N

GGN 4050373142391

Moody Certificate No MIC-UK 55110

Valid from: 22.12.2012

Valid to: 21.12.2013

The actual status of the certificate is always displayed at:

<https://database.globalgap.org>

Date of certification decision: 16.11.2012

Authorised Signature

Anthony Liang

Moody International Certification Ltd.

www.moodyint.com Merlin House, Stanier Way, Wyvern Business Park, Derby, DE21 6BF, United Kingdom

The use of the Accreditation Mark indicates accreditation in respect of those activities covered by the Accreditation Certificate 014. The certificate remains the property of Moody International Certification Limited to whom it must be returned on request.



014

2012年7月24日

いわい農産研究会 御中

特定非営利活動法人日本 GAP 協会
理事長 木内博一



放射能検査プログラム 結果について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

当協会の放射能検査プログラムにそって、各種の検査を行いましたところ、下記のとおりの結果となり、正式に貴農場を「日本 GAP 協会 放射能検査プログラム 合格農場」と認めます。



品目：ニラ

敬具

記

プログラム	概要	結果
ステップ 1	GM 管の線量計による汚染土壌のスクリーニング (μ SV/h) を行います。農場全体の中で汚染度の高い圃場を見つけることが目的です。	ユリ (ネギ) 科の圃場 24 圃場をスクリーニングした結果、0.10 から 0.26 μ Sv/h の範囲に収まっていた。そのため 0.26 μ Sv/h を示した千葉洋平 5 番圃場を選択し、その土壌をステップ 2 にて検査することとしました。

<p>ステップ 2</p>	<p>ステップ 1 の結果、最も汚染が高いと思われる土壌をサンプリングし、核種分析 (Bq/kg) を行います。土壌からの移行係数をもとに、収穫物の長期的な汚染度を予測することが目的です。</p>	<p>千葉洋平 5 番圃場の土壌を γ 線スペクトロメーターにて核種分析を行ったところ、放射性ヨウ素は不検出でした。放射性セシウム (Cs-134,137 合算値) は 650Bq/kg(乾重)でした。</p> <p>農林水産省が平成 23 年 5 月 27 日に発表した参考値「農地土壌中の放射性セシウムの野菜類と果実類への移行について」によれば同じユリ科のネギのセシウム移行係数 (作物重量 1kg あたりのセシウム濃度 / 土壌 1kg あたりのセシウム濃度) は、次のとおりであり、この土壌で生育したニラが食品衛生法の暫定規制値を超えることは考え難いと判断します。</p> <p>移行係数 : 0.0023 (最小 0.0017 - 最大 0.0031)</p> <p>また下記の、鈴木文男露地 No.1 圃場の交換性カリウムを測定したところ、52.8mg/100g であり、25mg/100g を上回っていますので問題ありませんが、他の圃場についてもカリウムの施肥をお願いします。</p>
<p>ステップ 3</p>	<p>直近の出荷物をサンプリングし、核種分析 (Bq/kg) を行います。出荷物が食品衛生法の基準値を超えていないか確認することが目的です。</p>	<p>ステップ 1 のスクリーニング検査の結果、ニラの圃場において放射線量が一番高かった鈴木文男露地 No.1 圃場のニラをゲルマニウム半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメーターにて核種分析を行ったところ、放射性セシウム・放射性ヨウ素共に不検出でした。</p>

----- 特定非営利活動法人 (NPO 法人) 日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX: 03-5215-1113

理念

- 農でつながる 農で輝く

目的

- 安全な農産物を生産することを通して、持続可能な共生社会を実現する。

行動指針

- 至誠を貫く

事業方針

安全な農産物
を作る

GAPによる
農場管理

小祝式BLOF理
論による栽培

栽培技術作業
のマニュアル化

安全な農産物
を届ける

GAPによる
農場管理

マーケティング

販売先別によ
る栽培、販売
管理

農業の裾野を
広げる

研修生
受け入れ

新規就農
支援

農家の連携

事業方針

障害者支援

障害者雇用

障害者施設
との連携

障害者施設
開設

雇用

高齢者雇用

引きこもり
ニート対策

子育て世代の
積極的雇用

地域に貢献

食育

遊休農地
の解消

市民農園

JGAPの理念

人間と地球と利潤の間に矛盾の無い
農業生産の確立と、生産・流通・消費
の信頼関係構築を目指します。

農産物の安全を確保して消費者を守り、
地球環境を保全し、同時に持続的
な農業経営を確立することがJGAPの目
指す最終的な目標です。

播種指示書 兼 実績書

(7月 1 日)

圃場名	自家5号		品名	小松菜
開始時間	9:00	終了時間	10:30	

高橋 美枝子	葛西 亮介	○
鈴木 りつ子	千葉 新太郎	
千葉 元子	小野寺 信幸	
鈴木 ミエコ	三浦 正行	
金今 徳子	佐藤 昭二	
藤江 光子	鳥畑 治	
小野寺 静香	藤森 学	
小野寺 美智	石田 良知	
菅原 ゆか	阿部 竜也	
菅原 由美	畠山 淳	
佐藤 千春	小山田 行男	
佐々木 トキ子	千葉 幸也	
畠山 美幸	菅原 美帆	
菅原 美幸	泉 智子	
佐々木 李恵	畠山 幸子	

種子名: 河北

ロットNo: 123456

播種間隔: 8 cm

播種粒数: 1 粒

使用グラム数: 100 グラム

* 育苗 ()

種子名: _____

ロットNo: _____

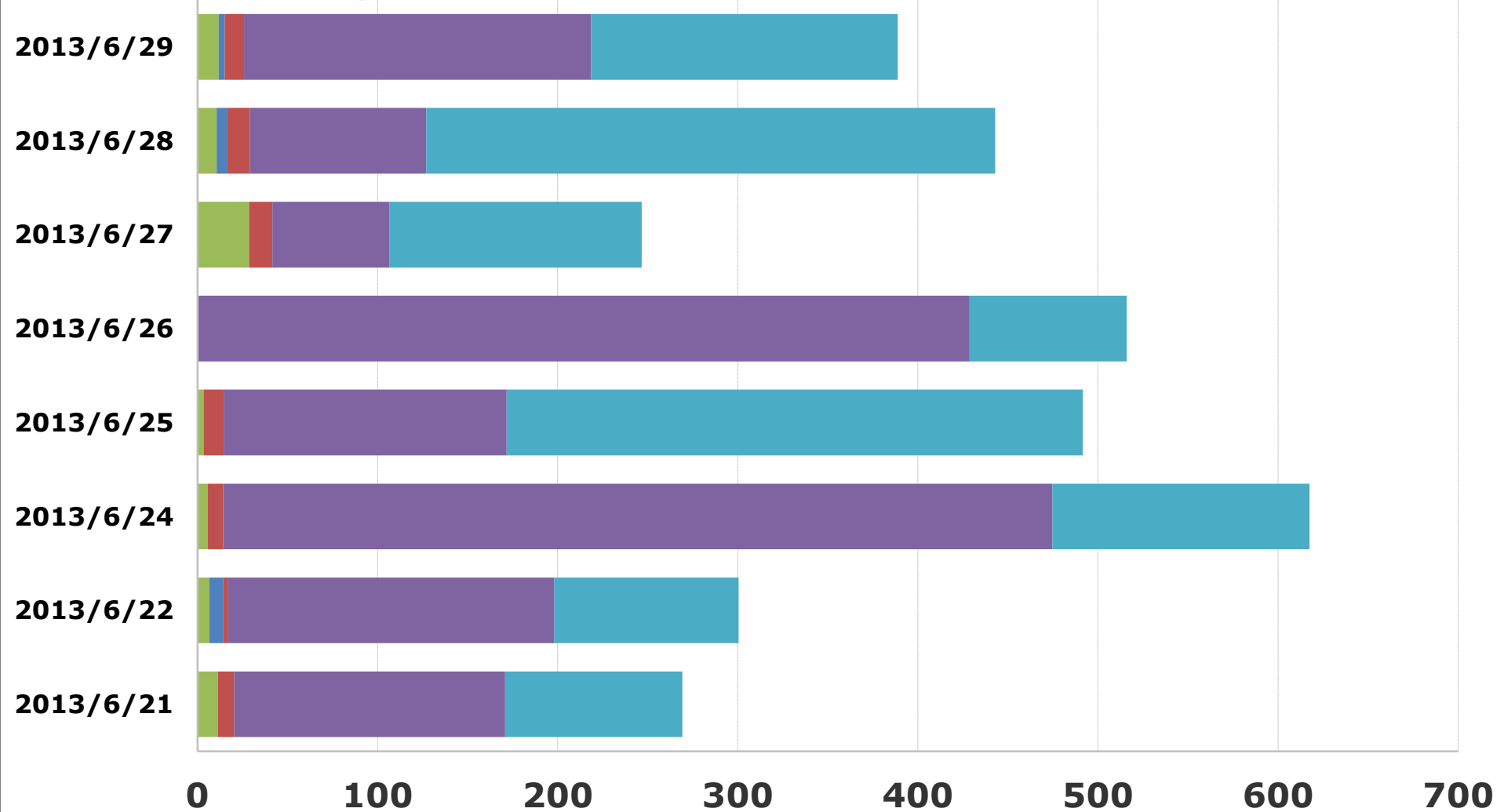
セルトレイ×数量 _____

防除指示書

(7月 1 日)

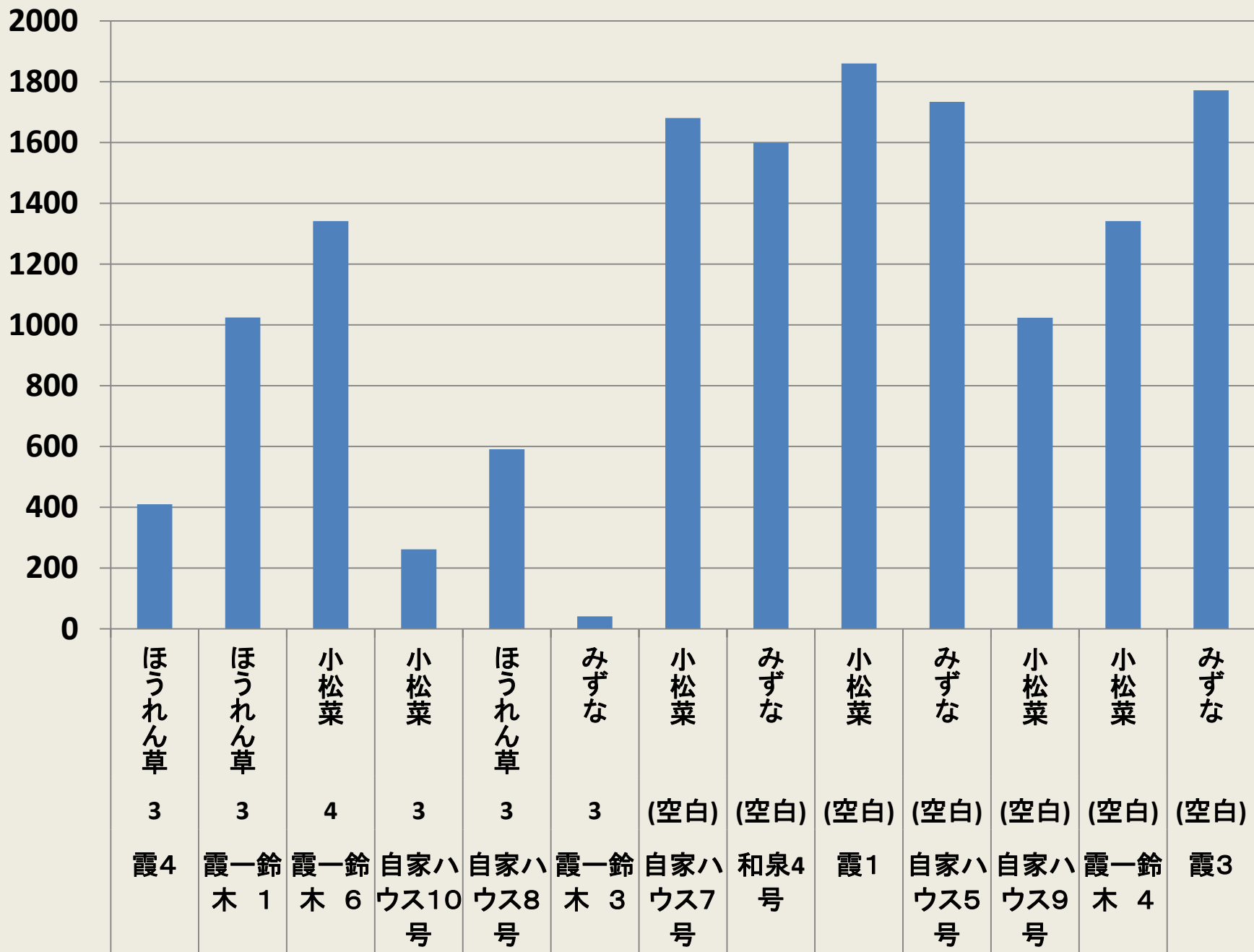
圃場名 (作付品目)	資材名 (希釈倍率)	資材量	散布量	作業者名	散布方法	点検・確認
自家10号 (小松菜)	アグロスリン (1000倍)	100ml	100リットル	千葉 佐藤	動噴・肩掛噴霧器	作業前点検 ○
						洗浄の有無
					作業時間	○
					16:00 ~17:00	洗浄水の処理 ○
収穫可能日	7/3		* 散布したら必ず圃場の看板に情報 (散布資材名・散布日・収穫可能日)を書き込むこと			
					動噴・肩掛噴霧器	作業前点検
						洗浄の有無
					作業時間	
						洗浄水の処理
収穫可能日			* 散布したら必ず圃場の看板に情報(散布資材名・散布日・収穫可能日)を書き込むこと			

収穫量(kg)／日



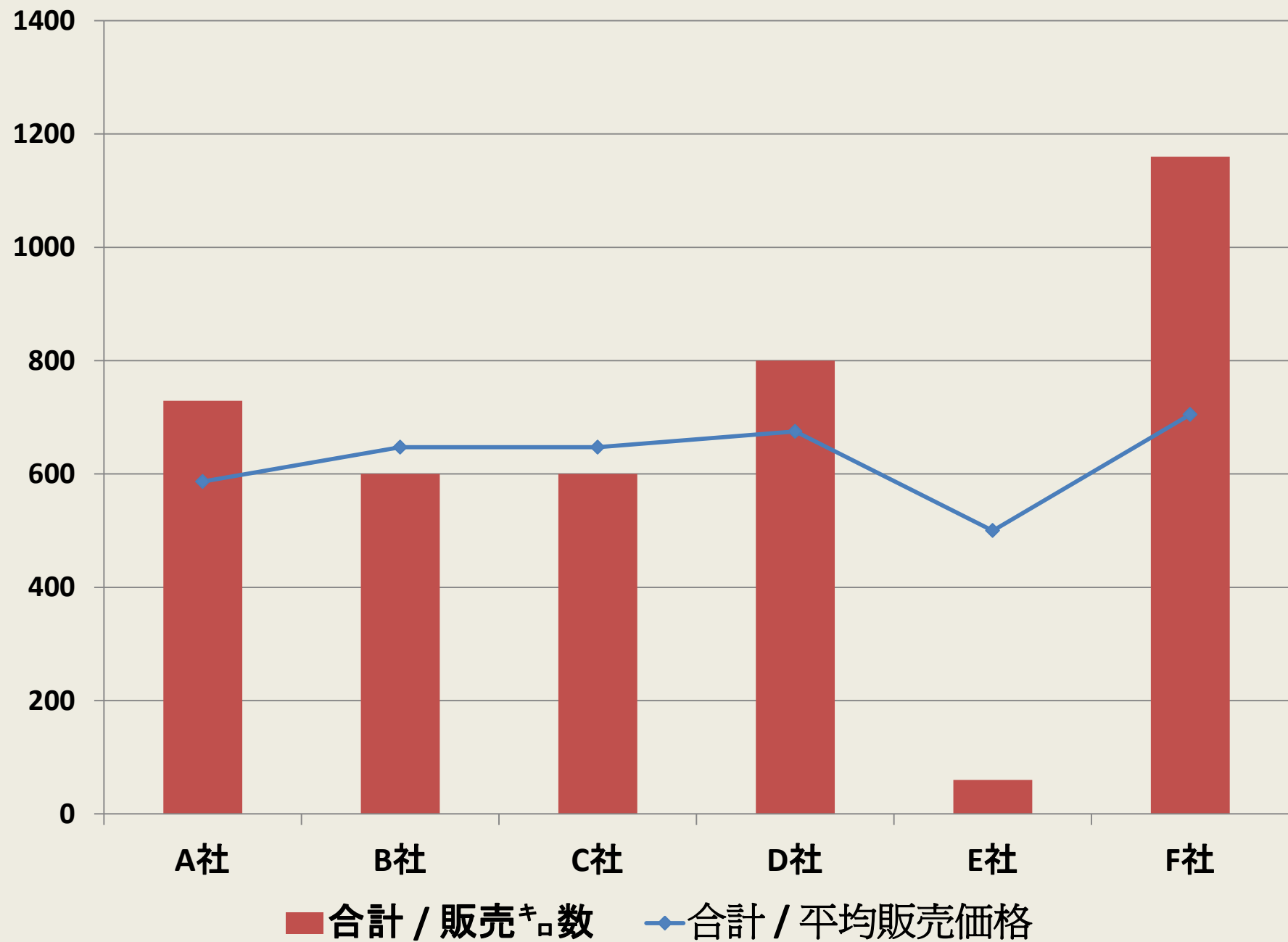
	2013/6/21	2013/6/22	2013/6/24	2013/6/25	2013/6/26	2013/6/27	2013/6/28	2013/6/29
■ つるむらさき	11.4	6.6	5.6	3.4		28.6	10.6	11.8
■ にら		7.8	0				6	3.3
■ 空芯菜	9	2.7	8.7	11.1		13.05	12.45	10.8
■ 小松菜	150.4	181.1	460.4	157.2	428.8	65	98	192.6
■ みずな	98.4	102.25	142.8	319.85	87.15	140	315.85	170.3

圃場別収穫量(kg)／10a

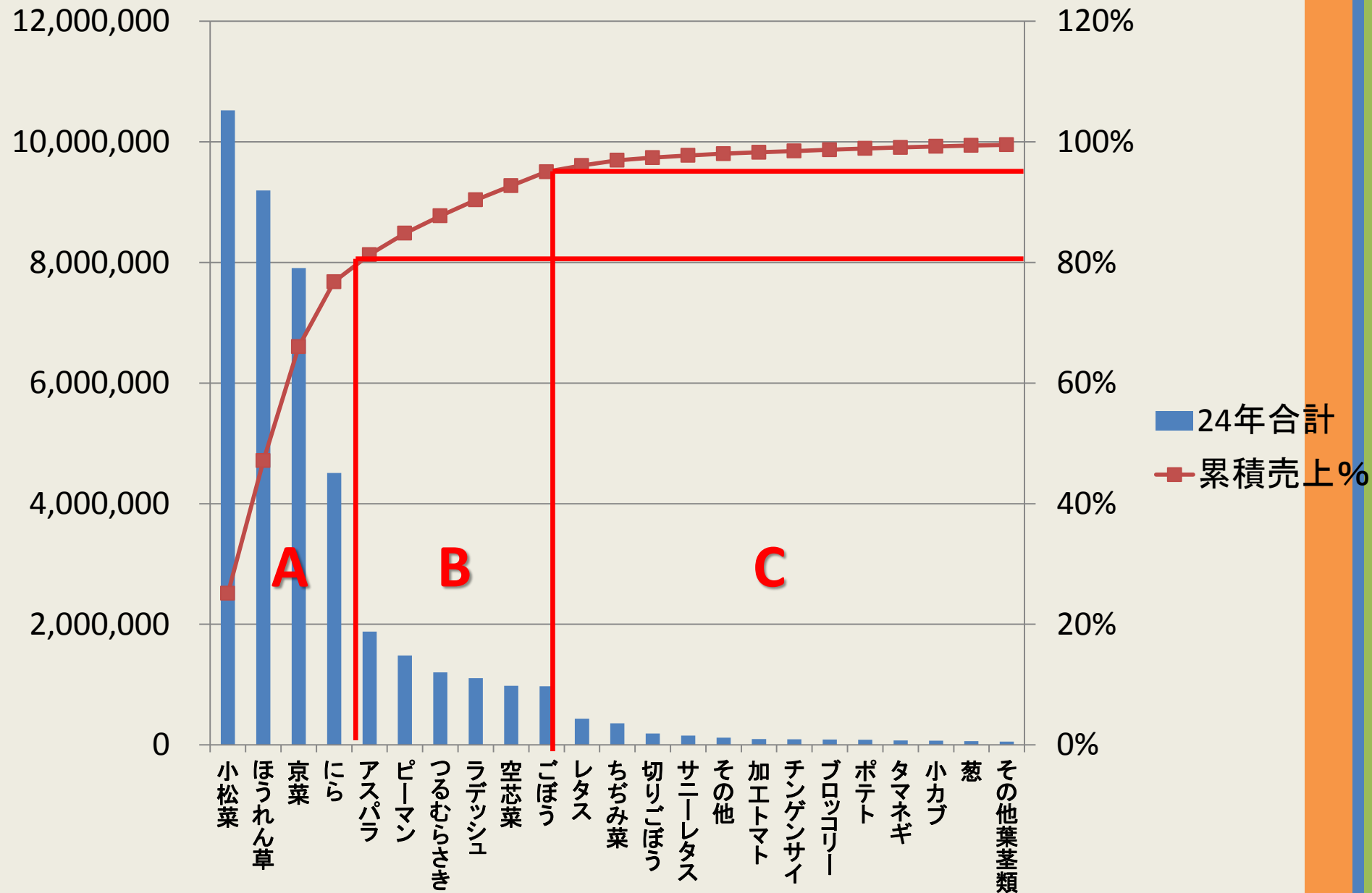


■ 集計

ほうれん草



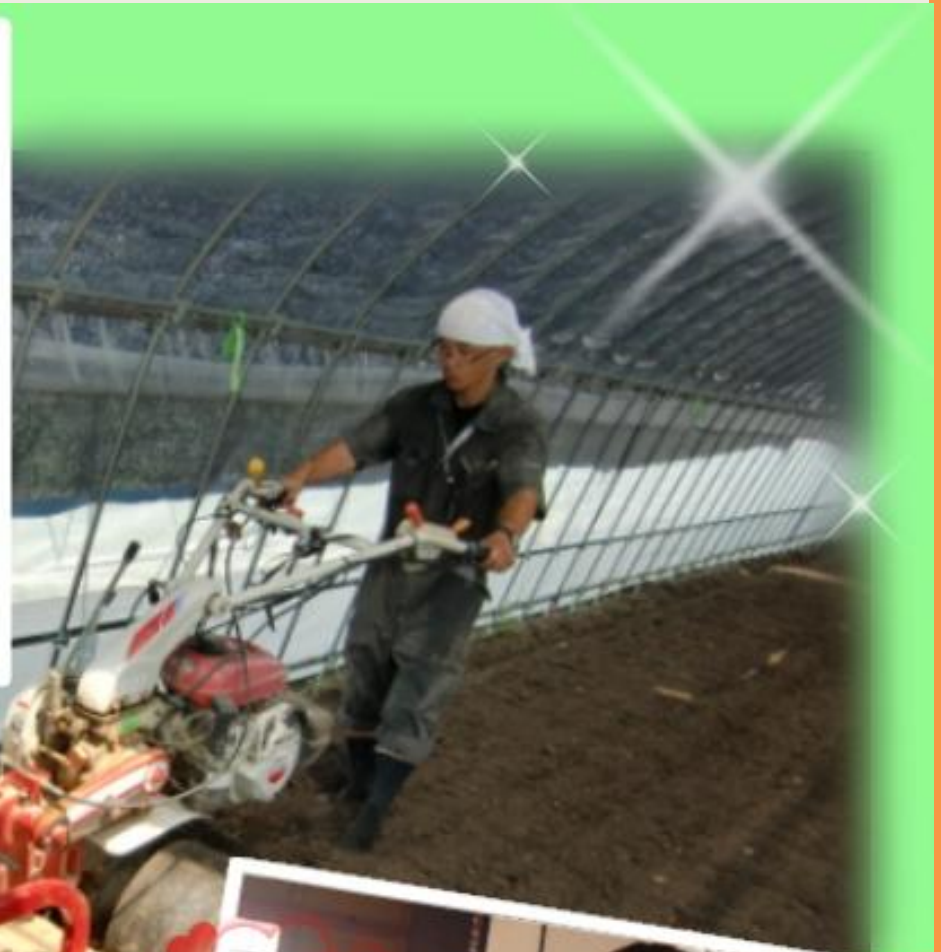
品目別売上ABC分析



In 秋田

夏の研修♪





新規就農支援プログラム



研修

- 栽培理論
- GAPによる農場管理
- 販売管理
- マーケティング

就農スタイル

- 就農地
- 栽培品目
- 就農規模

施設整備

- 新規就農地整備、研修
- 労務管理
- 財務管理

就農

- 共同販売
- 共同仕入
- 栽培研修
- 作業委託

GAPは農業生産者が自主的に取り組むべき経営手法である

GAPは食品事業者として守らなければならない最低限のルールである

GAPは農業生産者が事業として持続的に経営するための道しるべとなるツールである。